

修報〈論語素読会会報〉

巻 頭 言

世界に生かす、儒学の精神

学校法人昌平黌 理事長

儒学文化研究所 所 長

田 久 孝 翁

今年は短期大学創立四十周年・東日本国際大学開設十周年。この『修報』も十号を迎えました。二五五〇有余年の昔に遡り、「経世済民」世を経し、民を済え。こう言って時の王侯貴族を説いて十四年間、門人と共に諸国を歴訪した孔子のことは余りにも有名な話がありますが、今世紀に至っても、この哲学的真理とするものは生かされなければ、真の民主的平和国家の建設は成り立ちません。

『論語』に「己の欲せざるところ人に施すことなかれ」とありますが、戦争もまた然り、他国（人民）に危害を与えてはなりません。あくまでも世界は平和を求めています。如何なる理由も、それは口実であってはならないのであります。あくまでも真理を追求する正論でなければなりません。その意味で世界は今、孔子の教え、儒学文化の精神「忠恕」の道を求めています。

世界平和の原点には「友遠方より来たる在り、また楽しからずや」や『忠恕』の心に従って自分の良心に忠実で、他人に対する思いやる心があります。更に、日本には「遠くの親戚より近くの他人」と言う諺があります。この二つの諺を引用して、隣国は勿論、東アジア諸国は儒学文化圏として共通の文化を有する国家でありますから、世界平和に貢献する意味でも儒学文化の振興に寄与することが大切であります。それが本法人昌平黌儒学文化研究所の目的であると同時に、論語の素読教室をとおして『修報』を発行しているゆえんでもあります。